

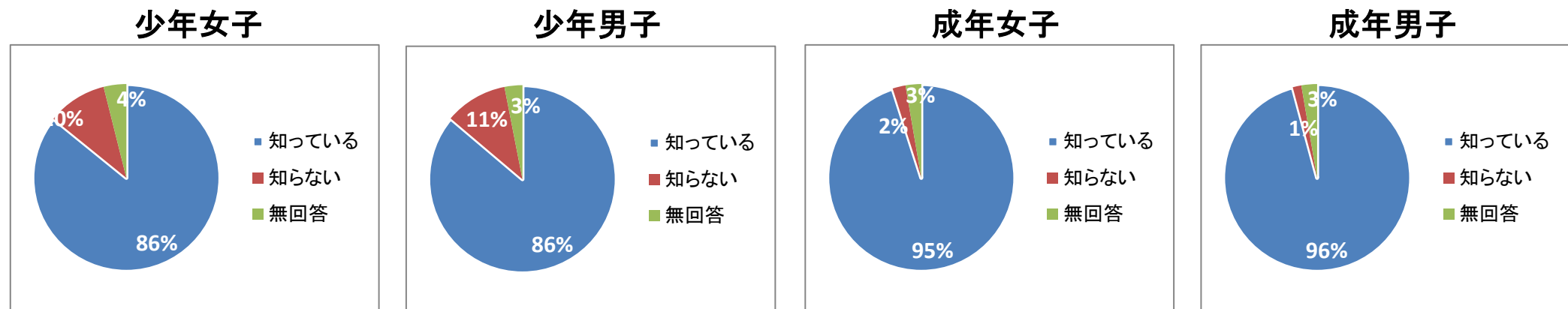
プロジェクト研究 : 『国体ドーピング・コントロール』に関するアンケート集計

知識・認知度に関する設問(7項目)と、知識に基づいた行動に関する設問(2項目)、意欲・不安感に関する設問(1項目)を実施した。

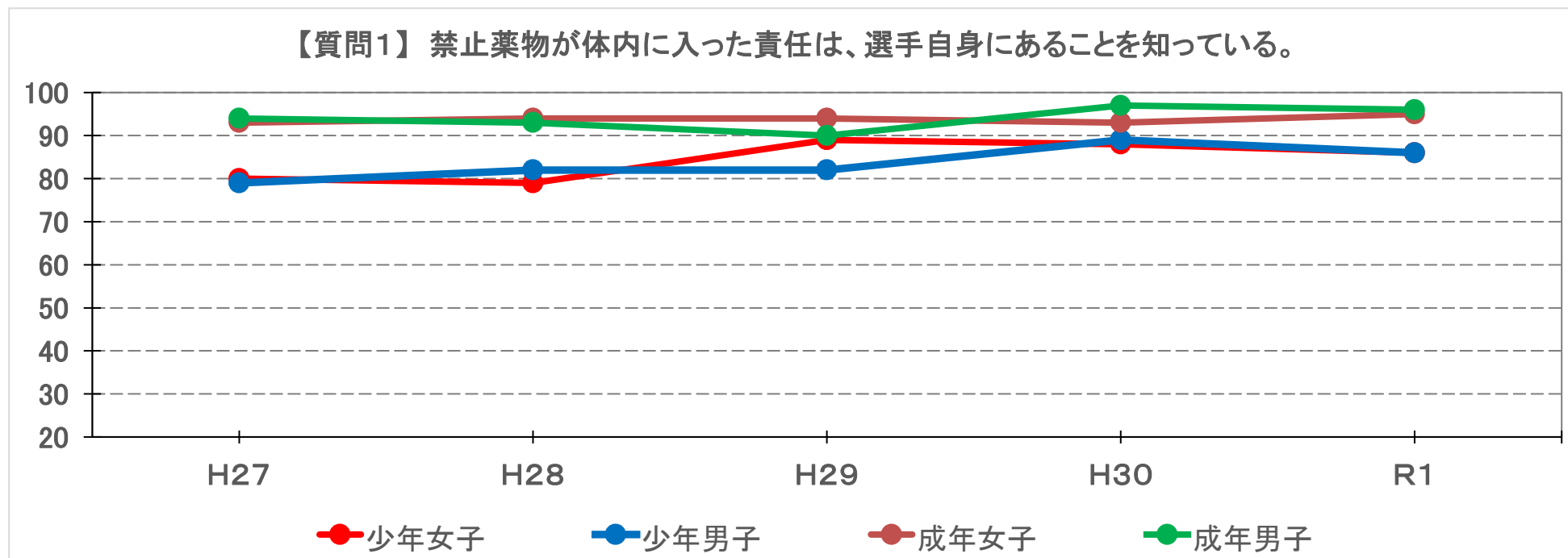
1 禁止物質が体内に入った責任は、選手自身にあることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	176	281	212	321	990
知らない	21	35	5	5	66
無回答	8	10	6	9	33
計	205	326	223	335	1,089

・成年種別では、約9割以上がドーピングの責任が選手自身にあることを理解しており、高い水準で推移している。
 ・少年種別も年々意識が高まってきており、引き続きアンチ・ドーピング教育を推進していくことが必要である。



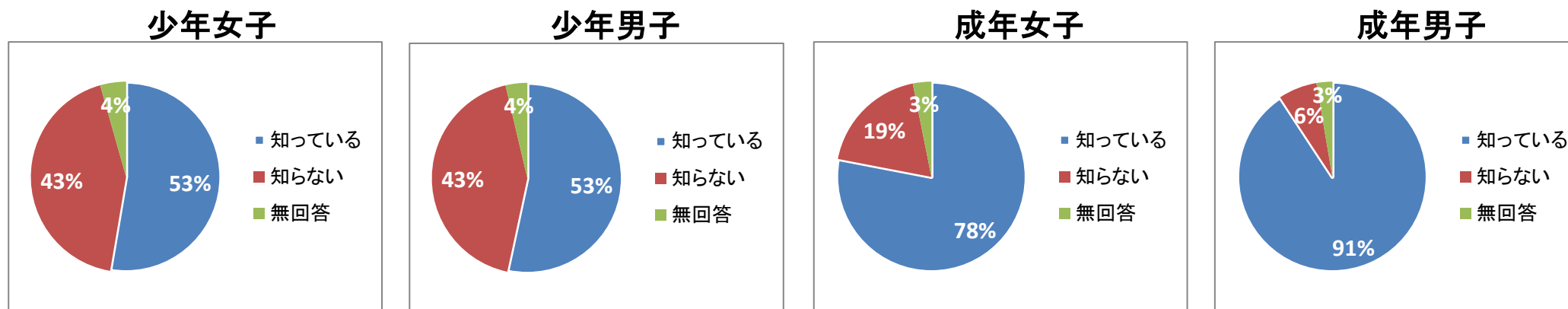
過去からの推移



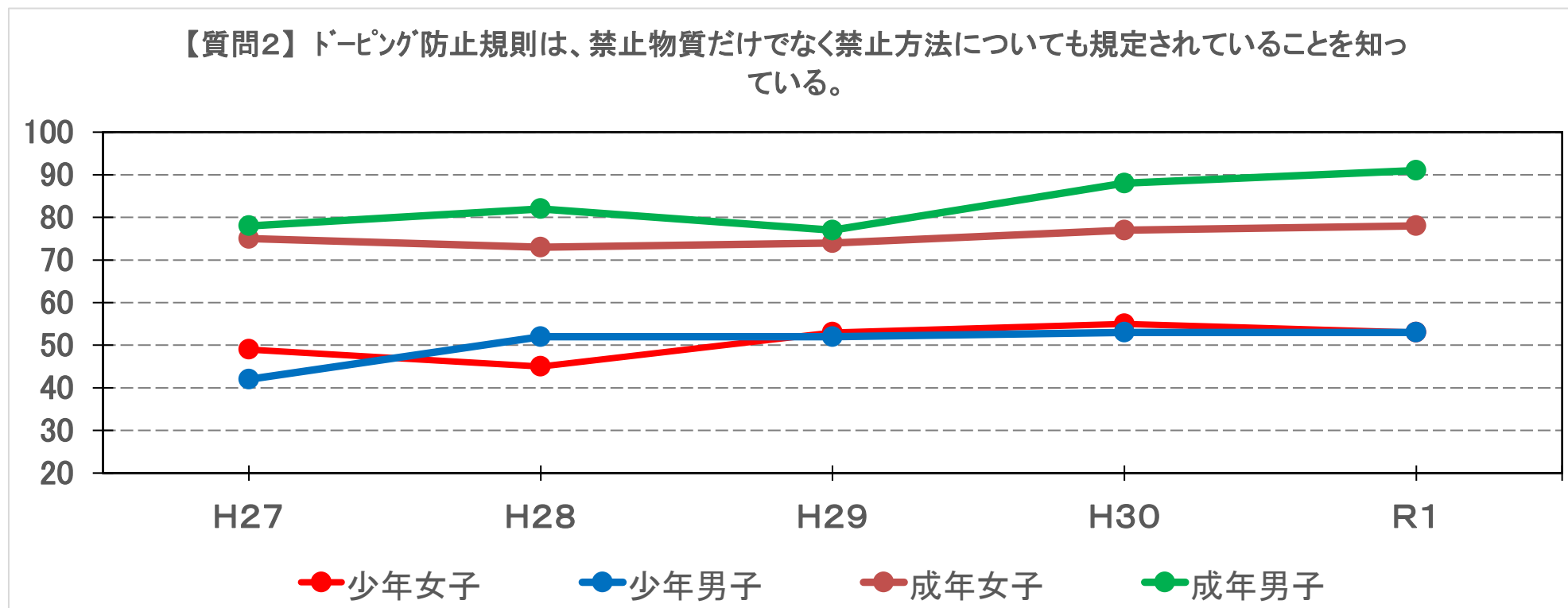
2 ドーピング防止規則は、禁止物質だけでなく禁止方法についても規定されていることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	108	174	174	304	760
知らない	88	140	42	22	292
無回答	9	12	7	9	37
総計	205	326	223	335	1,089

・少年種別で約4割が「知らない」と回答している。
 ・近年の違反事例も参考にしながら、ドーピング・コントロールに関する基本的な事項について学ぶ機会が必要である。



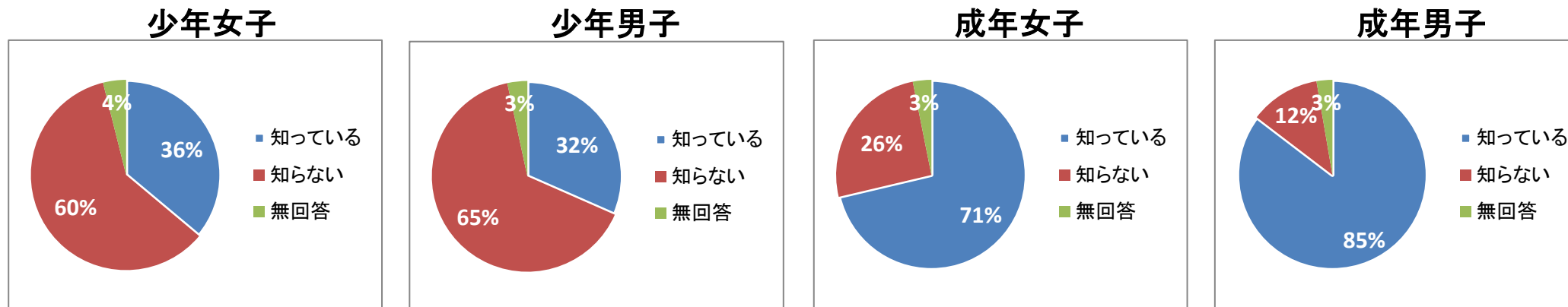
過去からの推移



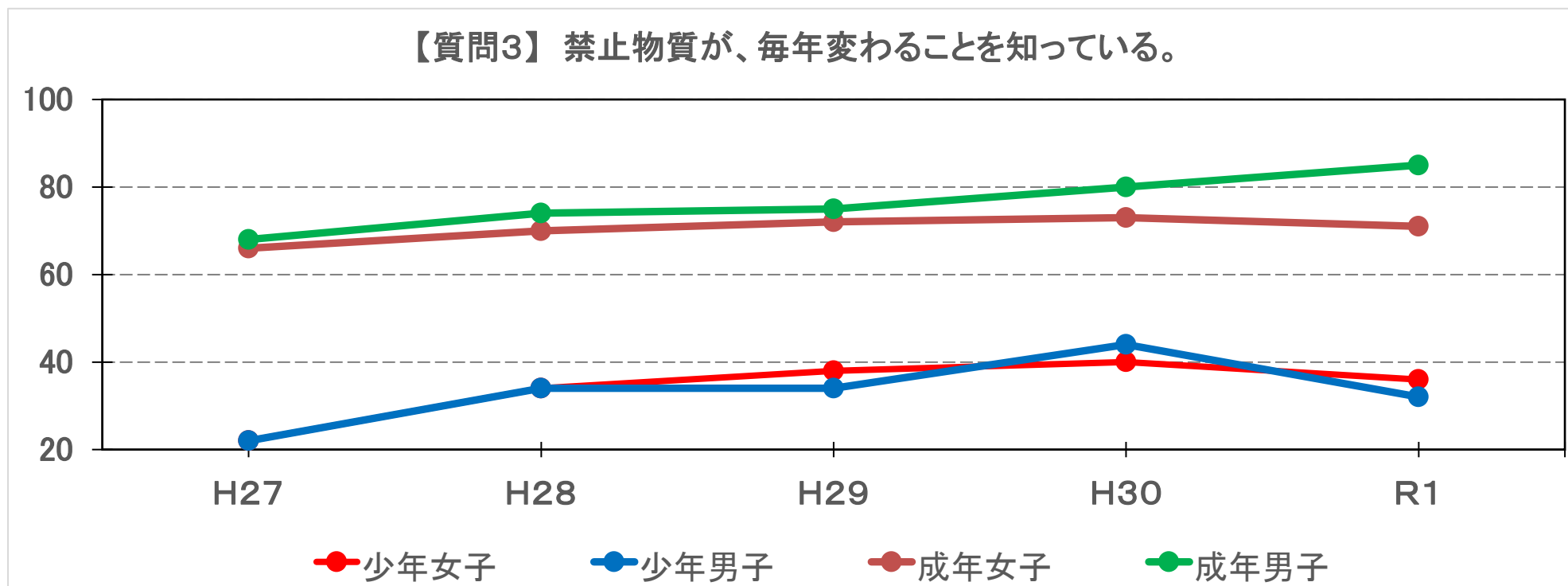
3 禁止物質が、毎年変わることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	74	103	159	286	622
知らない	123	212	57	40	432
無回答	8	11	7	9	35
総計	205	326	223	335	1,089

・禁止物質が毎年変わることを、少年種別の選手では約6割、成年種別の女子選手でも4人に1人が「知らない」と回答している。
 ・引き続き、講習会等を通して、基本的事項を確認していくとともに、禁止薬物や国際基準の変更などに伴う最新情報を適切に伝達していく必要がある。



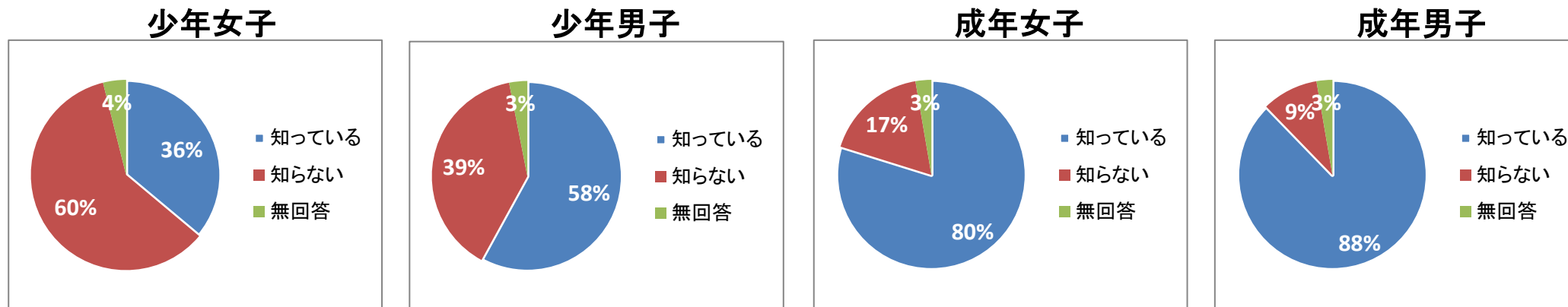
過去からの推移



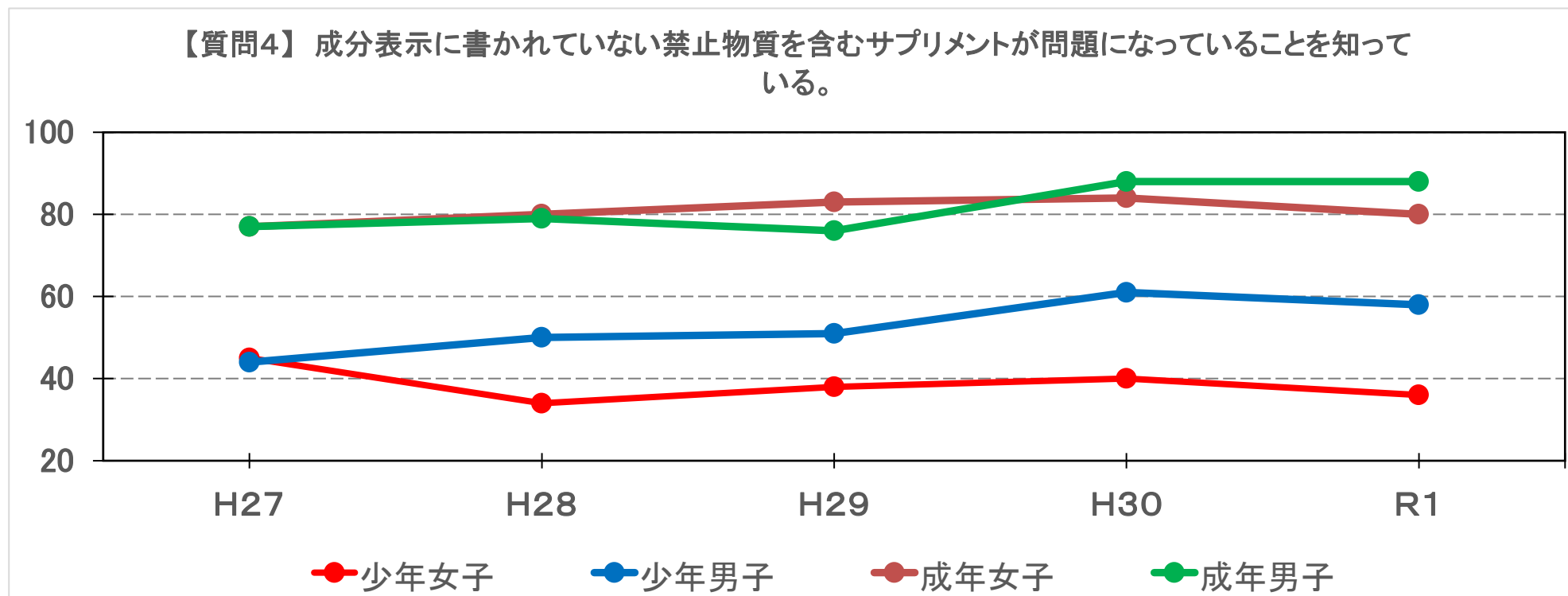
4 成分表示に書かれていない禁止物質を含むサプリメントが、よく問題になっていることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	126	189	178	294	787
知らない	71	127	39	32	269
無回答	8	10	6	9	33
総計	205	326	223	335	1,089

・少年種別、特に女子の数値が低く推移している。
 ・現在、サプリメントが原因と言われるアンチ・ドーピングのルール違反が、日本を含め、世界中で報告されている。
 選手自身がドーピングの知識に加えて栄養学に関する知識を身に付け、安易にサプリメントに頼らない食生活習慣を身に付けていくことが大切である。



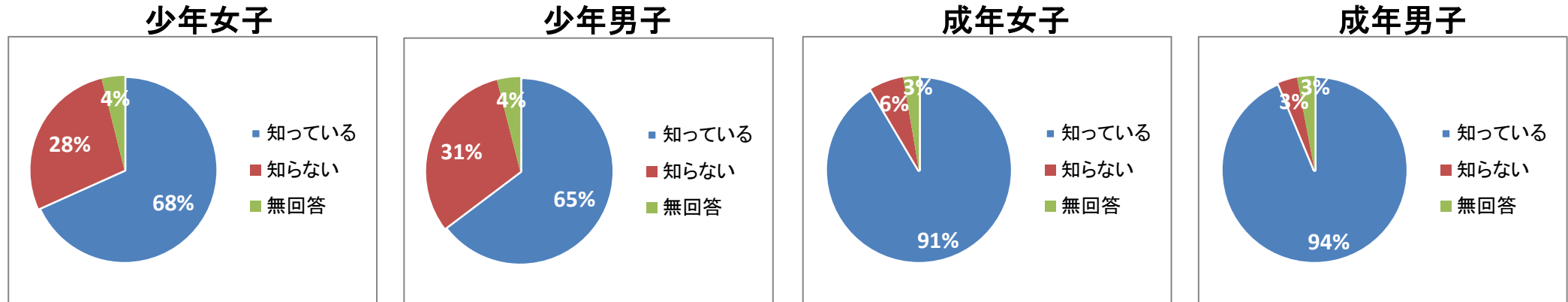
過去からの推移



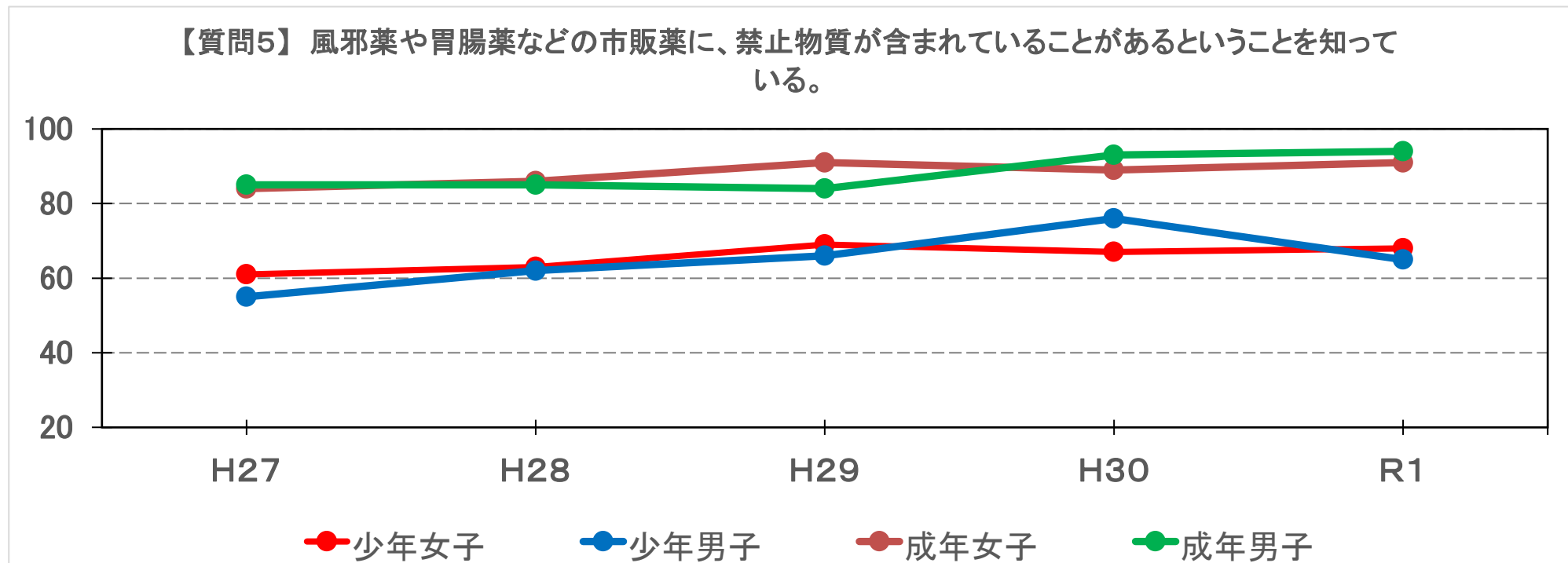
5 風邪薬や胃腸薬などの市販薬に、禁止物質が含まれていることがあることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	140	211	204	314	869
知らない	57	102	13	11	183
無回答	8	13	6	10	37
計	205	326	223	335	1,089

・少年種別における数値が改善傾向にある。
 ・今後、スポーツファーマシストの存在をより一層、選手・監督に周知するなど、薬に関して気軽に相談できる環境を整えていく必要がある。



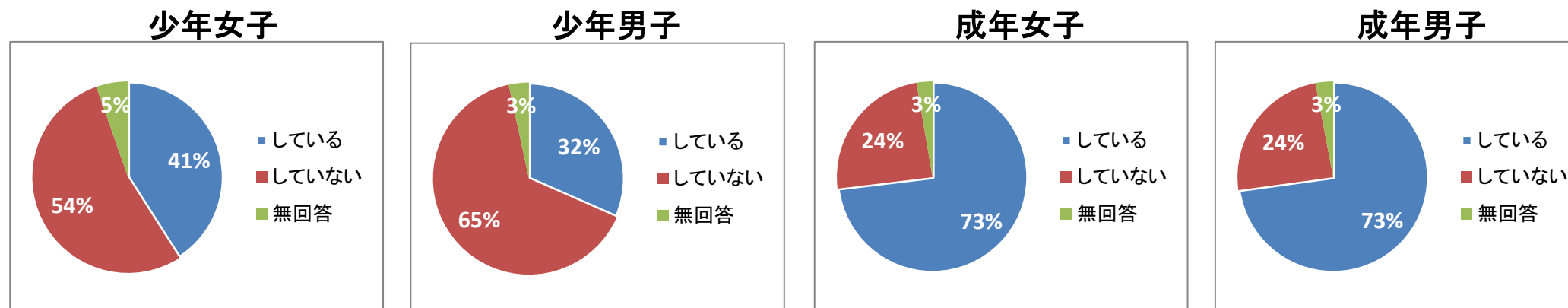
過去からの推移



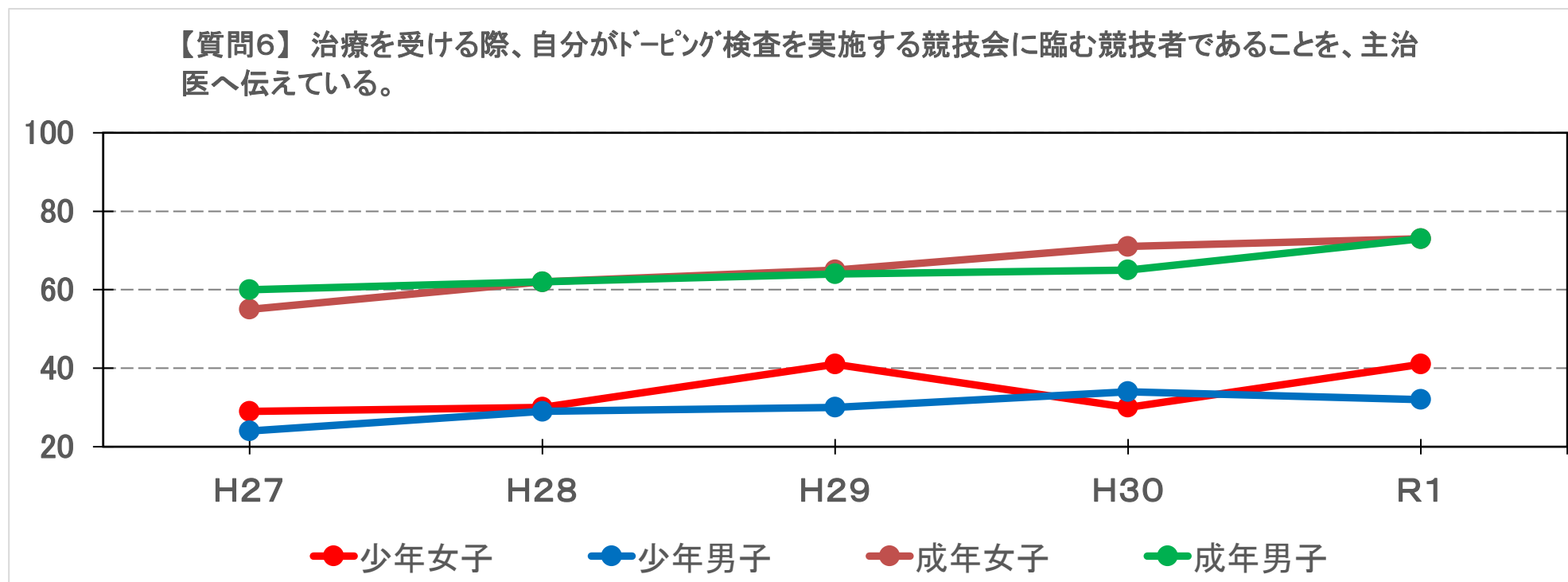
6 治療を受ける際、自分がドーピング検査を実施する競技会に臨む競技者であることを、主治医へ伝えていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
している	84	103	163	244	594
していない	110	212	54	81	457
無回答	11	11	6	10	38
計	205	326	223	335	1,089

・全体的に数値が上向きの傾向ではあるが、本項目は競技者として大変重要な事項であり、さらなる改善を図る必要がある。
 ・今後も引き続き、あらゆる場面で監督・選手に周知徹底する必要がある。



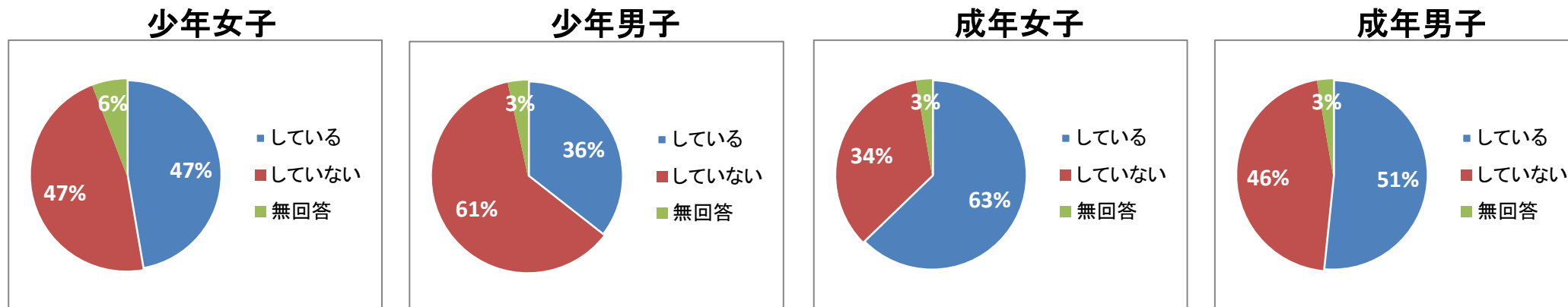
過去からの推移



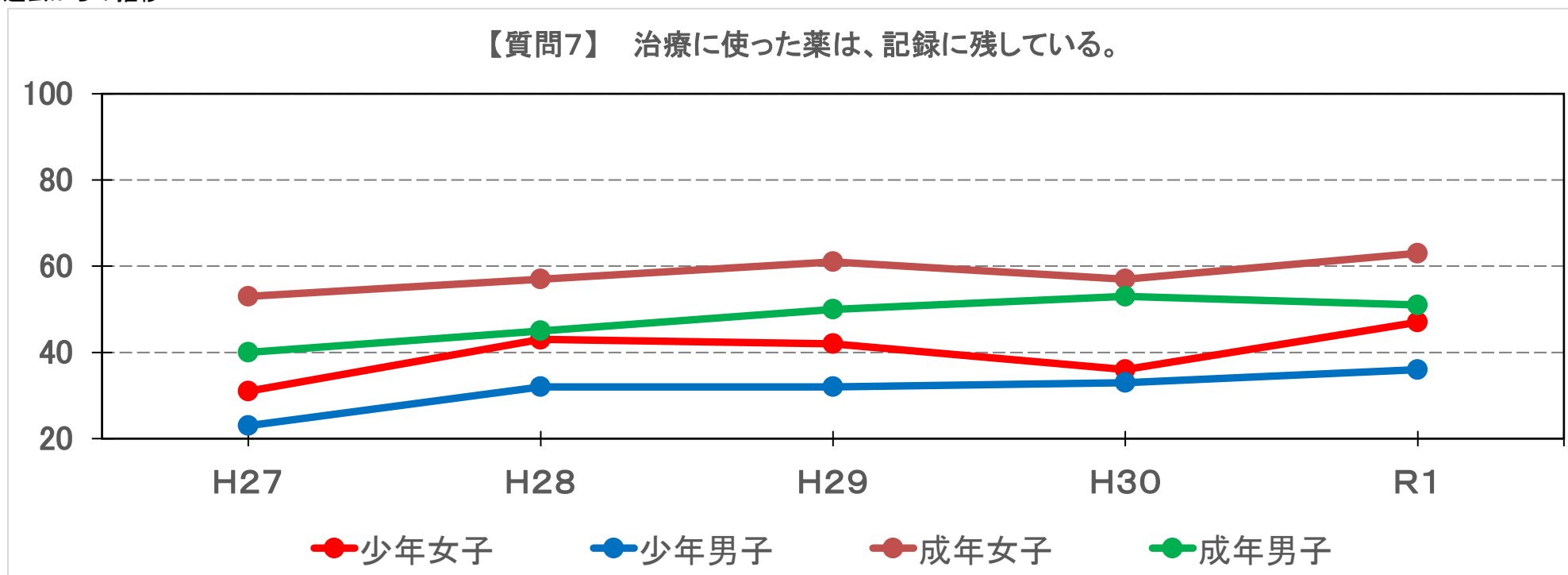
7 治療に使った薬は、記録に残していますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
している	97	116	140	173	526
していない	96	199	77	153	525
無回答	12	11	6	9	38
計	205	326	223	335	1,089

・医薬品のリスクを回避するための行動に関する設問である。医薬品であっても、選手が自分の体に入れるものに対しては常に責任をもち、いつでも使用した薬の確認ができるようにしておく必要がある。



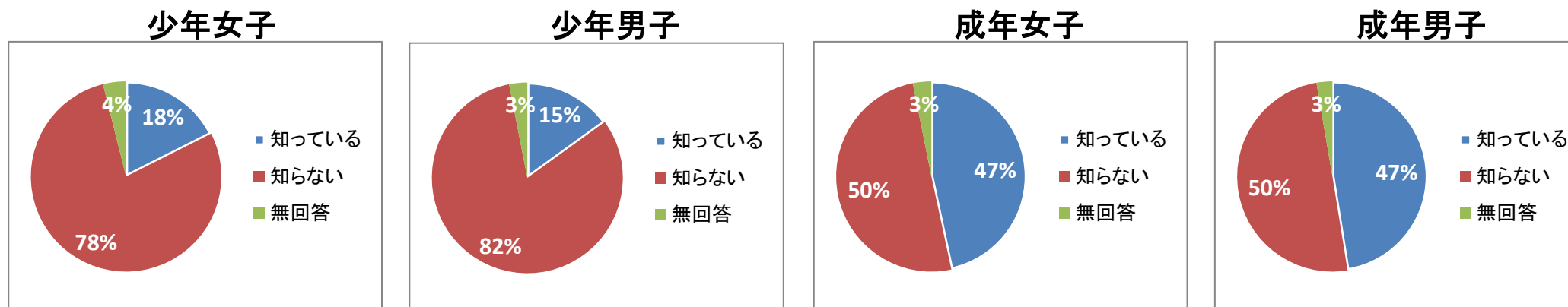
過去からの推移



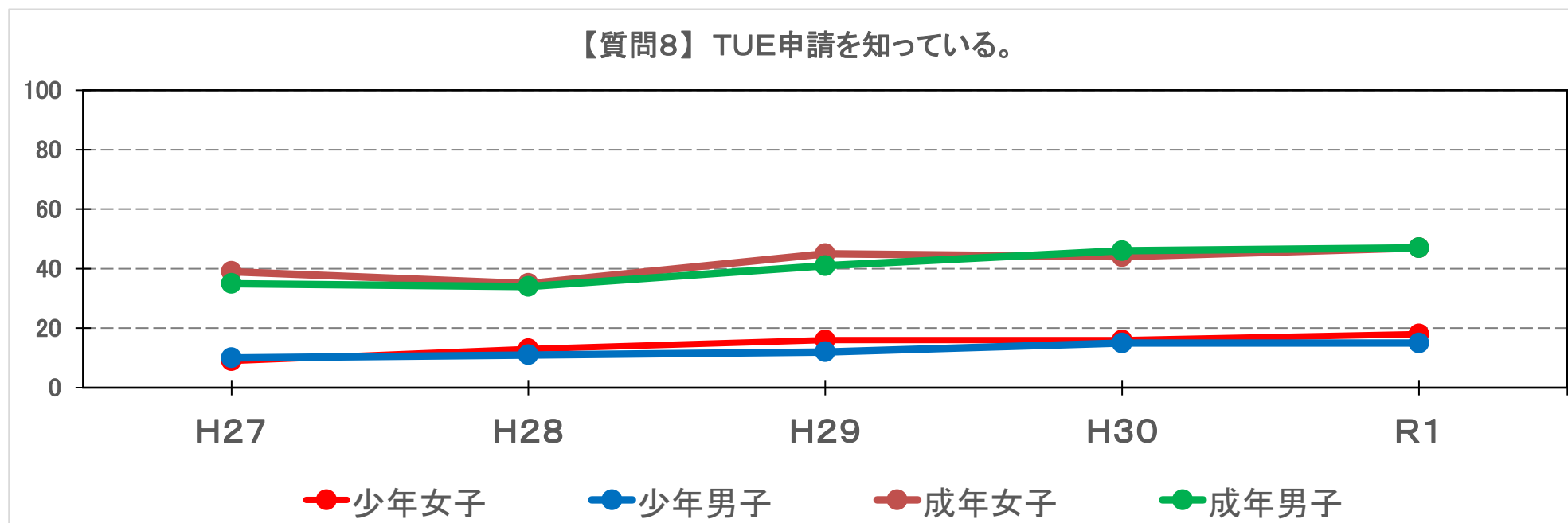
8 TUE申請とは何か知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	36	49	104	159	348
知らない	161	267	112	167	707
無回答	8	10	7	9	34
計	205	326	223	335	1,089

・少年種別のほとんどの選手がTUE(治療使用特例)申請について「知らない」と回答している。
 ・TUE申請が必要となる選手が少ないことも影響していると考えられるが、緊急を要する場合も含め、治療上、禁止物質を使用する必要がある選手が、TUEの知識がないことで競技の機会を潰すことのないよう、指導者も含め正しい知識を広く浸透させていく必要がある。



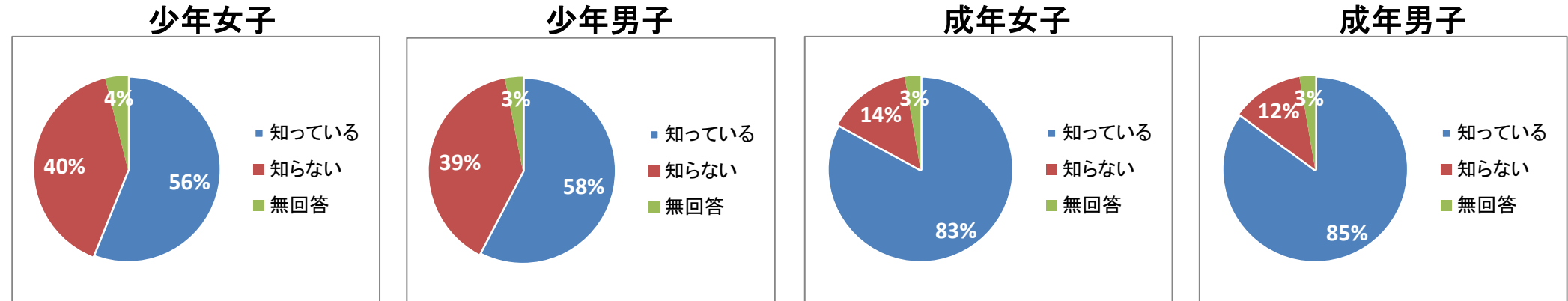
過去からの推移



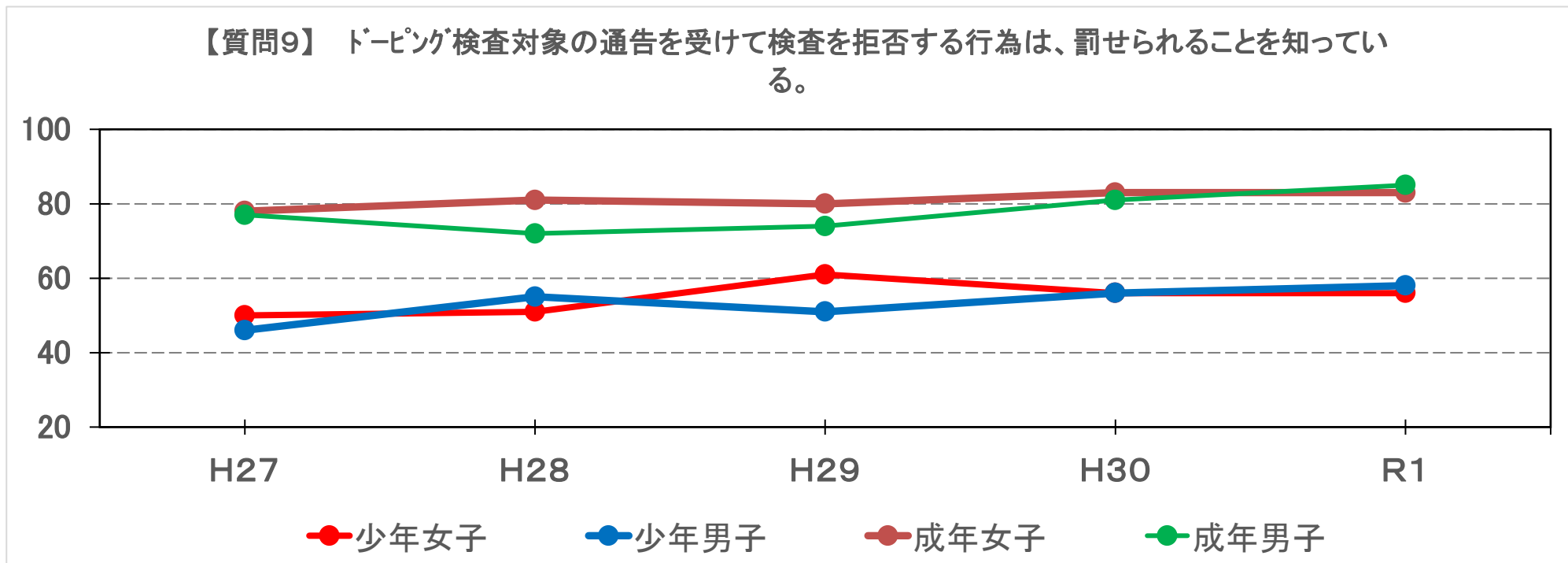
9 ドーピング検査対象の通告を受けて検査を拒否する行為は、罰せられることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	115	188	185	285	773
知らない	82	128	32	41	283
無回答	8	10	6	9	33
計	205	326	223	335	1,089

・少年種別の選手では約4割が「知らない」と回答している。ドーピング検査の実際の手順や競技会検査・競技会外検査などの基本的な事柄を理解する必要がある。
 ・国際大会に出場する機会が増える成年種別においては、RTP(検査対象者登録リスト)や居場所情報提出等の仕組みについてもより理解を深めていく必要がある。



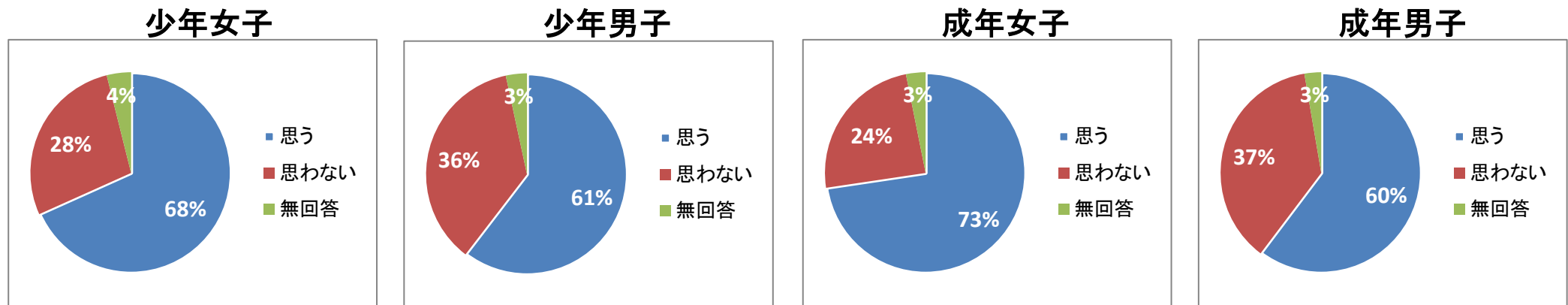
過去からの推移



10 あなたはドーピング講習会を受けたいと思いますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
思う	140	197	162	202	701
思わない	57	118	54	124	353
無回答	8	11	7	9	35
計	205	326	223	335	1,089

・約6割～7割の選手が講習の機会を求めている結果となった。
 ・競技団体と連携(競技団体独自の取り組み)を図り、より多くの講習機会を提供し、正しい知識の浸透を図る必要がある。



過去からの推移

